



「一生懸命」が生み出すもの

校長 梶ヶ谷 朋恵

5月28日(木)に、本校の第46回体育祭を実施しました。5月は修学旅行に続き、先月の学校だよりにも書いた「非日常」のパワーがたくさん発揮される一カ月でした。体育祭では、昨年に引き続き、学年ごとにクラス数が異なる関係で、色別チームの作り方や、得点のカウントの仕方など、体育祭実行委員会を中心に様々な工夫がなされ、当日に向けて準備や練習が日々行われました。

そして迎えた当日。太陽の陽射しは少なめの天気予報の中、時々細かいシャワーのような雨を浴びながら、予定されていたプログラムをすべて実施することができました。

そんな今年の体育祭を観戦していて強く思ったことは、西本郷中学校の生徒たちの「一生懸命」な姿とそのエネルギーの尊さです。開会式の各種プログラムを終えて、最初の種目、徒競走の第一走者たちが走り出した瞬間、思わず息をのみました。真剣に走る選手の方々の姿、そしてそれ以上に衝撃だったのが、応援席の様子です。どの色の応援席もスタートの瞬間から、一心不乱に応援の声をあげる皆さんの姿がありました。この第一種目は、例えば体育祭のラストに企画された花形種目や、事前に練習した応援合戦のように、特別に趣向を凝らして盛り上がるように計画している場面ではありません。そんなシンプルな徒競走がスタートした瞬間の「一生懸命」を見た瞬間に、「ああ、うちの体育祭は、もうこれだけで大成功だな」と感じました。閉会式でも紹介した通り、午前中の種目だけしか見学できなかった来賓の方の中には、涙を浮かべながら、皆さんの「一生懸命」に感動したと伝えてくださる方もいらっしゃいました。閉会式では本来、競技について校長からの講評をするところでしたが、そんな一生懸命な場面をたくさん作ってくれた皆さんに感謝の言葉ばかりの講評となりました。

体育祭の場面に限らず、西本郷中学校の皆さんの真面目で一生懸命な姿に、心を打たれることは、日常生活でもたくさんあります。「一生懸命」は自分の心を動かします。そして今回のように無意識のうちに周りの人たちの心も動かします。「一生懸命」が生み出すプラスの力は、とても尊いと思います。自分の「一生懸命」な気持ちを大切に、他の人の「一生懸命」を支える気持ちも持って、学校生活を送っていきましょう。